

平成 27 年度第 2 回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時 平成 27 年 9 月 24 日（木）10 時～11 時 30 分

■開催場所 平塚市博物館特別研究室

■会議出席者（敬称略）

会 長 宮川重信

副会長 石綿進一

委 員 岡部盛敏、椿田有希子

事務局 鈴木社会教育部長、澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山館長代理（学芸担当長）

■傍聴者 なし

■会議の概要

1 開 会

社会教育部長挨拶

2 議 事

(1) 夏期の事業報告

- ・ 夏期特別展
- ・ プラネタリウム
- ・ 平塚空襲・終戦 70 周年記念行事
- ・ 各種行事
- ・ 3 館コラボレーション事業

(2) 今後の事業予定

- ・ 秋期特別展

(3) その他

- ・ ウミガメの産卵について
- ・ 教育委員会評価点検会議について
- ・ その他

■議事および質疑

議題 (1) 夏期の事業報告について

◆夏期特別展、プラネタリウム、平塚空襲・終戦 70 周年記念行事、各種行事、3 館コラボレーション事業について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

事務局 本日欠席の宮澤委員より夏期特別展「古代生活実験室」についてのコメントが事前に届けられているので紹介する。

- ・子どもたちにとって今後の学習の基礎的な原体験となる体験的な学び、実感を伴った学びが不十分なまま、断片的な知識や知っているつもりの理解だけが積み上げられていくことを危惧している。それを補うための豊かな体験が、学校現場だけでは足りない。

- ・そうした中で、今回の特別展の企画は興味深く、良い企画であった

- ・視察した体験行事では「舞きりで火を起こそう」について、火起こしの作業を通して先人の苦労や工夫を実感する、それがあつた後に舞きりの製作があると、更に成果が上がったのではないか。

- ・展示について、小学生にとって「歴史」は生活密着型か生き方価値観型で教材化していくと面白い。その観点から、古代生活を実験型、体験型のテーマにする今回の展示は大いに楽しめた。

- ・改善点は2点。先ずユニバーサルデザインの観点から、表示されている漢字に振り仮名をつけること、難解な語句は避けるは解説をつける、文字はもう少し大きく、絵はイラストを多用してイメージを補助するなど。

- ・次に、申し込み手続きについて、往復葉書のみならずメール等による応募、電話や来館による受付など、複数の窓口を設けてイベントへの参加のハードルを下げてみてはどうか。

- ・残念なのは、子どもたちの夏休みが多様化してきている実態がある。地域やスポーツ団体に所属し、ほぼその流れの中でびっしり活動している子、塾や習い事等に通う子、こうした機会が提供されているにもかかわらず、そうした情報に触れられない、触れたとしても心を動かさない、あるいは動かせない子がいること。スケジュールが詰まる子はまだいい方で、予定行事が連日空白のまま漫然と家において、受動的に過ごしてしまう子たちに、こうした企画やイベント情報が浸透していくこと、その場に参加できる環境に置いてもらえることを願っている。

委員 火起こしはこどもフェスタでもやっているが、どうして浸透してこないのか。土器を作って焼くということなどと複合してみると、効果的なのではないか。

委員 関連行事について、参加者が少し少なくて残念だったということだが、周知はどのような形で行ったか。

事務局 展覧会やイベントで最も周知効果が高いのは「広報ひらつか」であり、もちろんこれには掲載している。また、特別展のリーフレットやポスターは市内の各公民館に配置・掲示をお願い

いしている。これに加えて博物館のホームページでも周知を図っている。

科学関係のイベントについては県内各地から参加があった。これは、県内全体で広く紹介するもの（「かながわサイエンスサマー（神奈川県）」）があり、これに掲載した結果と言える。これに対して人文系イベントの周知は平塚市内にとどまっているかなと思う。

委員 リーフレットなどを学校に配布すると良いのではないか。

事務局 お知らせだけではなく、普段から学校の先生方と情報を共有していくことが大切と考えている。学校にもリーフレットは配布しているが、早めにお送りしないとすぐに夏休みに入ってしまい、活かしきれていない場合もあるかもしれない。

委員 科学系の体験行事が多いが、こうしたものは子どもたちも関心を持っているのではないか。学校に対しても、校長会などの機会に周知を図る方法もあるだろう。

委員 私が学校にいたころは、あまり総合学習などが知られていなかったのも、博物館との兼ね合いがあまりなかった。最近では常に授業の中で、教室の中だけでなく、体験的なものなど博物館というものが浸透していると思うので、普段から先生の意識の中に「こういうものは博物館で」というものがあると良いと思う。

今日、この博物館に来ると小学生たちがいて「どこから来たの？」と聞くと二宮だと。皆「これを調べるために」と、ちゃんと意識を持っている。したがって、特別展のあるなしではなく、学校と博物館は普段の授業の中で意識を持つ必要がある。校長会などで先生の意識を高めながら、つながりを強めていけばよいだろう。

委員 教科書や図書館では文章や写真には触れられるが、博物館の特徴は現物があるということで、これは教室よりも強みがある。

委員 セミのぬけがら調査はかなり前からやっているが、そのデータの蓄積はどのように？

事務局 過去のまとめは行ってあるが、ここ何年かは調査を実施していなかった。昨年度、平岡幼稚園で実施したぬけがら調査の成果が「自然と文化」に投稿され、今年度は博物館と協力して調査を拡大、継続しようということになった。

委員 これは生物のモニタリングであるが、長期的に行わないと全く意味がない。また、モニタリングを行う場合、場所を限定するとか時期を限定するとかそういうことをしないとデータにばらつきが出る。そういうことはやっているか。

事務局 市内でも特定の場所はマークしている。これに加えて行事としては、自然観察ですとかそうしたものに触れるきっかけとして、多くの人に参加してもらおうという形で進めた。「調査」としての核と、それプラスアルファという形にしている。

- 委員 最近感じたのは、昆虫類の分布が温暖化と言われている状況の中でどんどん変わってきている。そうした変化が10年20年とやっていく中で出ていくかもしれない。セミのぬけがらで言えば、クマゼミあたりが平塚でどういう状態になっているかなど、長期的なスパンでどういう傾向があるのかを見ないと意味がないが、これは重要なことと感じている。
- 事務局 セミのぬけがらでは20年ほど前に網羅的に行なった調査がある。今回はすべてを網羅できなかったとしても地区ごとに過去のデータとの比較が可能と考えている。
- 委員 平塚空襲の件で、7月18日のリレートークの時に満席であったと。これは事前の申込制ではなく来た方は皆さんどうぞ、ということだったのか。
- 事務局 はい、自由参加で開催した。
- 委員 会場に入れない皆さんには、講堂の外にモニターと椅子を用意したようだが、混乱はなかったか。
- 事務局 講堂は椅子のみをぎっしり並べるにしても100名が限界になる。話者、参加者ともに高齢者が多く「立ち見」は想定しなかった。モニターは大きいものを使い会場内の雰囲気は伝わるようにして対応した。
- 委員 終戦70周年の行事について「市民が探る平塚空襲 通史編」がⅠになっており、今後も刊行を予定していると思うが、どのような計画になっているか。
- 事務局 Ⅰとして空襲当日の状況、続くⅡあるいはⅢではその前後を中心にまとめていく。
- 委員 空襲から70年ということで記憶も減ってくる。是非続けてもらいたい。
- 委員 8月半ばに市役所を訪れた際、1階で原爆関係の展示をやっていた。そこから博物館や図書館に誘導するような工夫はしているのか。
- 事務局 今回は出遅れてしまった感は否めないが、会期中にこちらのプラネタリウム「夕凧の街 桜の国」のチラシを置かせてもらった。
- 事務局 この議題の前半で広報に係る学校との連携という意見をいただいた。博物館が用意しているものが学校の授業に役立つということは、学校の先生方にも理解いただいていると思う。ただ、教育委員会等で耳にしているところでは、教育の現場では先生方のいろいろな事務も増えており、これを如何に軽減して子どもたちの方を向く時間を作るかということが大きな課題になっているようなので、先生方のニーズをとらえていく必要があると思っている。協議会の中でも教えていただきたいと考えているので、協力をお願いしたい。

議題（2）今後の事業予定

◆秋期特別展「後世に残したい相模川流域の地球遺産」について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 ジオパークというのは勝手に名づけても良いものなのか、あるいは世界遺産のように認定されるものなのか。

事務局 認定されるものである。日本ジオパーク委員会でのジオパーク認定、次の段階では世界ジオパーク委員会による認定がある。

委員 やはりジオパークにふさわしい条件を加味しながら、各方面に投げかけていくということだと思う。そのためには基礎として地域の住民が一生懸命やっているというのも一つだろうし、その立ち上げということで理解してよいのだろうか。

事務局 立ち上げまで至っていない。立ち上げという形は、関係する自治体などの同意があって初めて成り立つものと考えている。相模川流域には、ジオパークにふさわしい地球遺産がこんなにあるということを紹介することを、今回のテーマにしている。

委員 日本遺産の話が立ち上がったときに、神奈川県では大山と尊徳を挙げたが両方とも落ちている。そういった活動を考えていた。とても大変というか、すごいことだと思う。

委員 ジオパークという試みは今回初めてか？

事務局 他では聞いていない。

委員 特別展の趣旨にも記されているが、地球科学的に見て重要な自然遺産と、教育とか経済活動などをつなげていくことを含めて、相模川流域を考えていこうということの、先ず第一のステップということだと思う。

事務局 今回は、流域の重要なポイントを紹介する内容になっている。ジオパークは自然の景観や状況に加えて、それによってどのような人間の生活が営まれ、どのような文化が形成されてきたのか、そうしたところも関連しているので、最初の情報を提示するのは総合博物館である平塚市博物館がやるべきことなのではないかと考えた。

委員 以前、相模川流域の自然環境を含めて、京浜工事事務所が中心となってまとめたものがある。そういうものも参考にしながらやっていくことになると思うが、相当大変な仕事になる。

事務局 実際にジオパークにしていく活動を、博物館が事務局になって進めていくということは想定していない。博物館が日頃から行っている、地域を自然と人文の両面から総合的に紹介していくという仕事の概念が、ジオパークが持っている概念に親和性が高いということから、今回ジオパークという言葉を使った。これを行政の施策として進めていくプランがあるわけで

はない。

委員 普段の活動の行く先にジオパークのようなものがあるといいな、という状況なのだろう。

事務局 地域の資源をジオパークという形で活用することもあるだろうし、地域ごとにこれを盛り上げる材料にするといった方法もあるだろうから、行き先というのは必ずしも我々が規定するものではないと考えている。

議題（3）その他

◆ウミガメの産卵について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 このウミガメは標準和名では？

事務局 アカウミガメである。

委員 これはすべて終了か。

事務局 今年度確認されたのはこの産卵巣だけだったので、今回の産卵についての現地の活動は終了である。

委員 産卵したカメは一頭だけだったのか。

事務局 他にも上陸・産卵しているかもしれないが、情報としてキャッチできたのはこれのみだった。卵の数や足跡の大きさからすると大きめの個体と考えられるので、複数回の産卵も考えられるが、見つかっていない。

◆教育委員会評価点検会議について、事務局澤村館長が説明資料により説明。

委員 これは、毎年実施しているもののうち、今年度分ということでよいか。

事務局 毎年、その前年度の評価点検を実施している。

委員 聞き書きの会の成果について、アドバイザーの言われるのは細かい焦点をきちっとしたらということだと思うが、本の内容について、出発地点としては非常によくまとまっている。

委員 何かを設定してしまうと、話が固定してしまう。やはり、いろいろな人からいろいろな話を聞いて、後で分析すると良いデータになるので、この意見にこだわる必要はない。

事務局 評価点検会議は点検シートに基づいて実施されるため、その中で報告された内容に対してコメントをいただいている。実際の本をご覧いただければ、また違ったアドバイスになったかもしれない。アドバイザーには会議後に本をお渡しした。

◆事務局により次回日程を調整し閉会した。

以 上

当日配布資料

平成27年度第2回平塚市博物館協議会 次第

平成27年9月24日（木）

博物館特別研究室

1 開会

2 議事

(1) 夏期の事業報告

- ・夏期特別展
- ・プラネタリウム
- ・平塚空襲・終戦70周年記念行事
- ・各種行事
- ・3館コラボレーション事業

(2) 今後の事業予定

- ・秋期特別展

(3) その他

- ・ウミガメの産卵について
- ・教育委員会評価点検会議について
- ・その他

3 閉会

以上

平成27年度 夏期特別展

古代生活実験室—とにかくやってみよう!—

- **会期** 平成27年(2015年) 7月18日(土)～平成27年(2015年) 9月13日(日)
- **主催** 平塚市博物館・古代生活実験室
- **会場** 平塚市博物館 特別展示室
- **概要** 「古代遺跡を探索会」の分科会としてスタートした古代体験グループの活動は、平成18年に「古代生活実験室」として独立し、古代人の技術を実際に体験することによって学ぶことを目的として活動を続けてきました。その成果は博物館の体験学習だけでなく、学校での歴史学習にも大いに役立っています。
- 今回の特別展では、分科会時代以来10年以上の活動で培われた技術を多くの場面で利用できるようまとめるとともに、実験考古学や古代体験のポイントを考えます。

- **構成**
- I 実験考古学
1 実験考古学ということ 2 古代生活実験室の歩み
- II 古代生活実験室の活動と成果
1 生活の原点—火おこし— 2 切る、掘る、たたく—石器づくり—
3 人類最大の発明—土器づくり— 4 古代の味覚を探る—古代食—
5 海辺のハンターをめざして—鹿角製釣り針づくり—
6 古代の音色—土笛づくりと楽器— 7 古代実験のいろいろ
- III 古代体験活動
1 博物館の体験行事 2 学校での体験指導

■ **観覧者数**

	大人	こども	計	開館日数	こどもの割合	1日平均
7月	2,548	1,198	3,746	12	32.0%	312
8月	4,699	2,719	7,418	26	36.7%	285
9月	1,353	673	2,026	12	33.2%	169
合計	8,600	4,590	13,190	50	34.8%	264
26年度	7,082	4,423	11,505	44	38.4%	261.5

夏期特別展「ぼくたちはひとりぼっち? 地球の外に生命を探して」

- **関連行事**
- ① 作って奏でる弥生の土笛
開催日 7月19日(日) 製作 (参加8名)
8月23日(日) 焼成、演奏 (参加10名)
- ② 舞きりで火を起こそう
開催日 7月26日(日) (参加1名)
- ③ 弓矢を作ろう
開催日 8月2日(日) (参加18名)
- ④ ドングリを食べよう
開催日 9月6日(日) (参加13名)
- ⑤ 展示解説
開催日 ① 7月18日(土) (参加12名)
② 8月8日(土) (参加48名)
③ 8月29日(土) (参加14名)

■ 展示図録 「古代生活実験室 とにかくやってみよう！」

A4 32ページ ¥500

期間中の頒布数 49

■ アンケート集計

開催情報の入手	広報 ひらつか	博物館HP	新聞等	ポスター	口コミ
	11	7	1	11	7
	29.7%	18.9%	2.7%	29.7%	18.9%
おもしろさ	とても おもしろい	やや おもしろい	ふつう	やや つまらない	つまらない
	26	14	7	0	3
	52.0%	28.0%	14.0%	0.0%	6.0%
難しさ	とても よくわかる	まあわかる	ふつう	やや むずかしい	とても むずかしい
	14	14	14	5	2
	28.6%	28.6%	28.6%	10.2%	4.1%
総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	30	8	5	0	3
	65.2%	17.4%	10.9%	0.0%	6.5%

住まい	平塚市内	平塚市外 神奈川県内	神奈川県外 関東地方	関東地方以 外	海外			
	30	17	1	0	0			
性別	男	女						
	23	25						
生徒・学生	小学生	中学生	高校生	大学生				
	16	4	1	1				
世代	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
	30	2	2	6	1	2	3	2

自由意見

総合的にアプローチが楽しい。麻ひもによる衣の製作を一度やってみたい。オカリナと同じ原理の笛についても一度製作してみたい。

たのしかったよ。もようをつくるのがおもしろかったです。

火おこしについてもっと知りたい。

ねんどのがおもしろかったよ。

とてもわくわくしていいと思いました。ねんどなど、やって分かるものが挑戦できてよかった。またきます。

楽しい。よくわかる。

ねんどがよかった。

うるさい

小中学生の夏休みに合わせたとても良い企画だと思います。

ねんどがたのしかったです。

土器のもようがおもしろかった。

たのしかった。

現代に作成した土器は、後世でどのように思われるのか？

ねんどがべたべたしてた。

土器のもようのつけかたやとくちょうがよく分かりました。

おもしろいので、もう一度と言わずにたくさんやって。

良く出来て居ます。

みんなできたいです。

ねんどがたのしかった。

土器のもよう体験などができて、とてもたのしかったです。

おもしろかった。

博物館があるから平塚市の徳川時代の事が今の人にわかって良いと思ひます。(全国の人が集まっている現代)

挑戦状、おもしろかったです。

カラムシの言葉をはじめて知り、絵を見てもわからず、野に自生しているのかと思いを古代にはせられました。

とてもたのしかった。つくれてよかった。またつくりたいです。

粘土のコーナーが良かったです。小さな子どもが体験できて楽しめました。

ねんどのもようをつけるとき、いろいろな道具がおいてあって楽しかった。

「とにかくやってみよう！」の作るやつがおもしろかったけど、近くに水道があればよかったなど思いました。てんじ物は、子どもむけのせつめいだったら、みんなきょうみをもつと思います。

ねんどでの体験はおもしろかったけど、手を洗う場所への案内ぐらいはほしかった。

膨大な失敗があつての実践活動(実験考古学)であることが良く伝わる内容でした。今後の活動を楽しみにしております。

ねんどたのしかったです。

ちょうせんじょうはとてもおもしろかったです。

内容はかたくるしいけど、ねんどのちっちゃい子どもがよろこびそうでよかったんじゃない。

土器のもようをつけるのがむずかしかった。

素晴らしいです。本物をさがせはむずかしかったー。

縄文土器の製作実験参加してみたいですが、子どもがいないので参加しづらい。子ども以外でも参加できるようにしていただけると嬉しいです

ねんどでもようをつくるのがおもしろかった。クイズがむずかしかったです。

平成27年度 夏の行事

イブニング・ミュージアム・ウィーク 8月11日(火)～8月16日(日)

	延長時間帯入館者数			イベント企画 (17:30～18:30)
	大人	子ども	計	
11日 火	26	2	28	貝塚の貝から何がわかる? (参加11名)
12日 水	15	9	24	かさぶくろロケットを飛ばそう (参加2名)
13日 木	4	2	6	特別展 展示解説 (参加1名)
14日 金	38	11	49	太古の調べと太鼓の響き (参加16名)
15日 土	44	15	59	星空からのメッセージ プラネタリウムで聴く空襲の記録 (参加28名)
16日 日	33	10	43	ドローンのしくみ (参加8名)

プラネタリウム投影

一般投影 「冥王星フライバイ」

7月18日～8月30日 (1) 11時～ (2) 14時～

特別投影 「夕風の街 桜の国」

7月18日～8月30日の土・日曜日、8月6日、11日～14日 (1) 15時30分

投影日	大人	18歳未満	合計
2015/7/18 (土)	17	0	17
2015/7/19 (日)	15	2	17
2015/7/25 (土)	3	0	3
2015/7/26 (日)	21	17	38
2015/8/1 (土)	15	4	19
2015/8/2 (日)	14	7	21
2015/8/6 (木)	9	3	12
2015/8/8 (土)	13	7	20
2015/8/9 (日)	18	12	30
2015/8/11 (火)	11	10	21

投影日	大人	18歳未満	合計
2015/8/12 (水)	30	16	46
2015/8/13 (木)	7	4	11
2015/8/14 (金)	16	14	28
2015/8/15 (土)	20	6	26
2015/8/16 (日)	17	4	21
2015/8/22 (土)	15	9	24
2015/8/23 (日)	16	13	29
2015/8/29 (土)	17	3	20
2015/8/30 (日)	15	2	17
19日間	289	133	420

幼児投影 「だれがおひさまかくしたの？」

6月20日(土)～7月11日(土)の土曜日 11時

★親子ほしぞらタイム

27年度 親子星空タイム(5/9から7/11の幼児投影で実施)

		5月	6月	7月	計	総人数
投影回数		3	3	2	8	
総合計 人数	大人	49	115	73	237	460
	子ども	45	109	69	223	
内対象者	親	34	92	67	193	406
	子	40	104	69	213	
全投影回数		47	28	41	116	
総合計 人数	大人	436	460	693	1589	4630
	子ども	1250	886	905	3041	

26年度 親子星空タイム(5/10から7/12の幼児投影で実施)

		5月	6月	7月	計	総人数
投影回数		4	3	2	9	
総合計 人数	大人	107	127	87	321	576
	子ども	76	110	69	255	
内対象者	親	67	102	69	238	479
	子	67	110	64	241	
全投影回数		45	32	38	115	
総合計 人数	大人	724	480	590	1794	5179
	子ども	1443	940	1002	3385	

平塚空襲・終戦70周年／核兵器廃絶平和都市宣言30周年 記念事業

企画展 平塚空襲70周年

会期：7月16日(木)～9月3日(木)

会場：1階寄贈品コーナー・2階情報コーナー

リレートーク 市民が探る平塚空襲 その時、人々は

開催日：7月18日(土) 13時30分～15時30分

会場：平塚市博物館講堂

参加者：121名

『市民が探る平塚空襲 通史編 I』刊行(平成27年8月発行)

平塚の空襲と戦災を記録する会 編

A4判 280頁 400円

各種行事

自然観察入門講座 「貝化石を調べよう」	7/23	(参加28名)	2回講座
体験学習「地形模型を作ろう」	8/18	(参加31名)	
	8/20	(参加28名)	
体験学習「不思議な板で万華鏡を作ろう」	7/24	(参加36名)	追加実施 追加実施 追加実施
体験学習「ミニプラネタリウムを作ろう」	7/28	(参加45名)	
	8/5	(参加33名)	
	8/13	(参加18名)	
	8/14	(参加21名)	
体験学習「虹を見てみよう」	7/31	(参加35名)	

体験学習「光る星座カードを作ろう」	8/4	(参加 66 名)
体験学習「デジタルカメラを作ろう」	8/7	(参加 12 名)
みんなで調べよう！ 2015 セミのぬけがら調査	7/11	(参加 47 名)
	7/16	(参加 5 名)
	7/26	(参加 21 名)
	8/25	(参加 17 名)
自然教室「夕方の鳥をみよう」	8/22	(参加 9 名)
スターウォッチング入門講座・夏	7/12	(参加 21 名)
星を見る会	7/1	(雨天中止)
	7/23	(参加 48 名)
	8/6	(参加 163 名)
	8/20	(雨天中止)
雑貨団シアトリカル・プラネタリウム	8/28	(参加 96 名)

講習会 1
講習会 2
合同調査会
まとめ

3館コラボレーション

別紙参照

夏休みに美術館・図書館・博物館をめぐるろう!

平塚市美術館では7月11日(土)～9月13日(日)に、企画展「ペコちゃん展」を開催します。
文化ゾーンの3館では「ペコちゃん展」にあわせ、夏休み期間中、コラボレーションしたイベントを企画しています!

ペコちゃん10館長 開催日時：7/23(木)

株式会社不二家のキャラクターで、お菓子が大好きな女の子・ペコちゃんが美術館、図書館、博物館の館長を1日つとめます。
館内を案内したり、プラネタリウムの受付をしたり、文化ゾーンのどこかへ出没します。

【ペコちゃんの1日スケジュール】午前10時～10時30分 館長任命式(図書館1階ピロティ) → 午前11時～11時30分 館内のご案内(図書館)
→ 午後1時50分～2時30分 プラネタリウムのご案内(博物館) → 午後3時～3時30分 館内のご案内(美術館)



平塚市美術館

学芸員によるギャラリートーク

日時：2015年7月12日(日)、8月23日(日)、
9月12日(土) 各日 午後2時～3時

場所：展示室2 (※：申込不要、要観覧券)

ワークショップ 「ミルキーをつくるろう!」

日時：2015年7月18日(土)、8月15日(土)、
8月1日(土)、8月15日(土)
：各日 午前11時～、午後1時30分～、午後3時30分～
各回30分前に整理券配布

場所：アトリエB 定員：各24名 対象：小学生ほか

ワークショップ 「ペコちゃんとダンスしよう!」

日時：2015年7月26日(日)、8月29日(土)
各日 午前11時30分～、午後1時30分～

場所：ミュージアムホール 定員：先着100名

ペコちゃんカーがやってくる!

会期中、美術館前庭にペコちゃんカーが登場します。
みんなもペコちゃんと記念写真を撮ろう!

みんなでスタンプラリー (中学生以下、先着5,000名)
館内でペコちゃんスタンプを押そう!3つ集めてミルキーゲット!



平塚市中央図書館

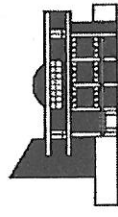
3館コラボ記念展示「平塚市のキャラクター」「平塚市の食品会社紹介」

内容：平塚市の「キャラクター」、平塚市の食品会社を紹介します。

日時：7月17日(金)～8月30日(日)

場所：中央図書館 1階 ロビー

※各フロアでもテーマに関連した資料の展示を行う予定です。



平塚市博物館

体験学習 「ドングリを食べよう」

内容：縄文時代の貴重な食料「ドングリ」をクッキー状に作り、
不二家のカントリーマアムと食べ比べをします。

日時：9月6日(日) 午前10時～午後4時

場所：科学教室、屋外展示場

対象：小学4年生～中学生

参加費：無料 定員：15名

応募：往復はがきに行事名、住所、氏名、電話番号を記入して下さい。
応募多数の場合は抽選します。

締切：8月27日(木) 当日消印有効



平塚空襲・終戦70周年

核兵器廃絶平和都市宣言30周年

今年には平塚市が核兵器廃絶平和都市宣言をしてから30年、平塚空襲・終戦から70年の節目の年です。図書館と博物館では、この節目に空襲を振り返る、様々な展示や講演会、プラネタリウム投影を行います。

【平塚市中央図書館】

・特別展示「終戦から70年、平塚大空襲から70年」

日時：8月30日(日)まで

場所：中央図書館 1階 ロビー(エレベーター前)

内容：図書館では平和月間事業の一つとして、平和について書かれた資料をリストにまとめた「平和の本」目録を毎年発行しています。この展示では、過去の「平和の本」目録から平塚の空襲や平塚市内での戦争体験などについて書かれた本の一部を紹介し、目録の配布も行っています。子ども室・貸出室・参考室でも、平和の本の関連図書を表示しています。

・平和映画会

時間：午後2時から(開場午後1時40分)

場所：中央図書館 3階ホール

上映内容：

- 7/19(日) 「平塚市広報番組 戦後60年企画 平塚大空襲 ~あの日、焼夷弾の雨が降った~」(実写) 30分
- 7/26(日) 「青い目の人形物語」(アニメ) 30分
- 8/ 2(日) 「さよならカバくん」(アニメ) 25分
- 8/ 9(日) 「おかあちゃんごめんね」(人形劇) 20分
- 8/16(日) 「明日への伝言」(実写・一般向け) 21分

【平塚市博物館】

・企画展「平塚空襲70周年」

日時：7月16日(木)~9月3日(木)

場所：博物館1階 寄贈品コーナー、2階 情報コーナー

内容：平塚空襲にかかわる資料や基本的な情報の紹介とともに、博物館で活動する「平塚の空襲と戦災を記録する会」による被災地図などの調査・研究成果も発表いたします。

・リレートーク「市民が探る平塚空襲 その時、人々は」

日時：7月18日(土) 午後1時30分~3時30分

場所：博物館1階 講堂

内容：平塚空襲はどのような空襲だったのか。その生活の苦労はいかなるものだったのか。6人の空襲体験者をお招きし、それぞれの体験談を通して、あの空襲の実態にせまります。

定員：80名(参加自由・当日受付先着順)

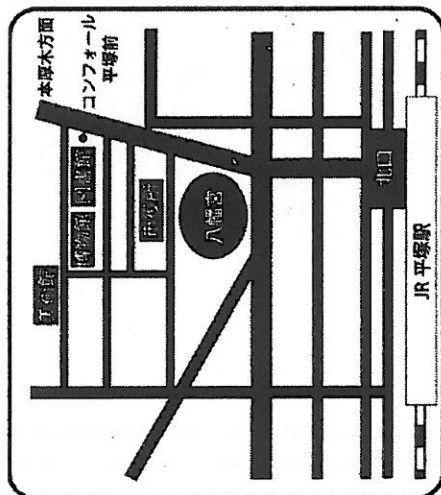
・プラネタリウム特別投影「夕凧の街・桜の国」

日時：7月18日(土)~8月30日(日)の土・日曜日、

8月6日(木)、11日(火)~14日(金)15時30分~

観覧料：200円(18歳未満・65歳以上無料) 定員：70人

内容：広島市出身のまんが家、こうの史代さん原作の、原爆をテーマにしたコミック作品を、広島市こども文化科学館が「被爆地の科学館から平和を訴えたい」との思いでプラネタリウム番組化したものです。期間中の土・日曜日のほか、8月6日とイブニング・ミュージアム・ウィークに投影を行います。



平成27年度 平塚市博物館秋期特別展 開催概要

- 1 名称 「後世に残したい相模川流域の地球遺産－相模川をジオパークに－」展
- 2 会場 平塚市博物館 特別展示室 入場無料
- 3 会期 平成27年10月17日(土)～11月29日(日)
休館日：毎週月曜日(11月23日(月))は開館、24日(火)は休館
開館時間：9時～17時
- 4 趣旨 近年、自然志向のブームによって自然百景や絶景紀行などが盛んにメディアで取り上げられている。行政でも景観を活かして景観計画や景観条例を作って街づくりを行い、すぐれた景観について八景、五十選、百景などを選定している。また、近年、地球科学的に見て重要な自然遺産(地球遺産)をジオパークとして捉え、文化遺産や産業なども含めて様々な遺産を有機的に結びつけて保全し、教育やツーリズムに利用しながら地域の経済発展を目指し、日本ジオパーク委員会により36のジオパークが認定されている。
- 相模川は日本でも数少ないプレート境界の河川であり、伊豆弧が本州弧に衝突した際に生じたもので、世界的にも重要な場所である。ここでは、平塚市周辺の大地の母体となった相模川と金目川・水無川、流域の山々をめぐる自然景観や自然遺産31地区を地形・地質的背景から紹介し、どのようにして大地が形成されてきたのか、上流から下流へと地域毎にどのような特徴があるのか、自然環境の変化、遺跡・古道・湧水・利水など歴史的遺産との関わり、暮らしや産業との関係なども踏まえて、大地のダイナミクスとその歴史について展示する。相模川流域もジオパークにふさわしい地域であることを発信したい。
- 5 協力 国立研究開発法人海洋研究開発機構・神奈川県立生命の星・地球博物館・相模原市立博物館・平塚市商業観光課・平塚市観光協会・相模川流域各市町村の観光課と観光協会など
- 6 記念講演会 「相模川をジオパークに」
- | | | | |
|----|-------------------------|-----------------------------|-----------------------|
| 日時 | 11月8日(日) 13時～17時 (参加自由) | | |
| 内容 | ①13:10-13:55 | 相模川流域のジオサイト | 森 慎一(平塚市博物館) |
| | ②14:05-14:50 | 日本列島の誕生と相模川 | 藤岡換太郎(神奈川大学) |
| | ③15:00-15:45 | ジオパークとその認定までの道のりー箱根ジオパークを例に | 平田大二(神奈川県立生命の星・地球博物館) |
| | ④15:55～16:40 | ジオパークのあり方 | 小川勇二郎(筑波大学名誉教授) |
| | 16:45～17:15 | 総合討論 | |
| 会場 | 平塚市博物館講堂 | | |

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 平塚市博物館

TEL 0463-33-5111 / FAX 0463-31-3949

担当：学芸担当 森・野崎

ウミガメの産卵 2015

■経緯

平成 27 年 (2015 年)	6 月	24 日	(水)	8:40	市民より博物館に「海岸に往復する足跡と掘削したような痕跡がある」との電話が寄せられる。場所はプールの西側、浜へ降りたところの右側とのこと。
				8:50	平塚市みどり公園水辺課に連絡。
				9:30	葉山しおさい博物館倉持学芸員に連絡。
				10:20	新江ノ島水族館より、本日 14:30 に現着する旨連絡あり。平塚土木事務所河川砂防第二課に連絡。
				14:30	現地調査 新江ノ島水族館 北嶋円飼育技師 平塚土木事務所 遠藤孝之主任技師 飯田嘉洋技師 平塚市博物館 栗山雄揮学芸員
				15:00	場所を特定できず調査終了
				15:30	博物館栗山が予定より西、虹ヶ浜信号の南で足跡を確認し、新江ノ島水族館・平塚土木事務所に連絡。再度調査することとした。
				16:30	現地調査実施。産卵を確認し、標識を埋設して埋め戻す。

■状況



足跡の状況



産卵地と上陸・帰還経路の状況



卵の状況

平成 27 年 (2015 年)	8 月 23 日	(日)	8:40	秘書広報課草山氏来館、子ガメの足跡らしきものを確認したとの連絡。
			8:50	平塚市博物館から新江ノ島水族館に連絡。日曜日のため平塚土木事務所には新江ノ島水族館から追って連絡するとのこと。新江ノ島水族館北嶋氏が現地で子ガメの脱出を確認。
平成 27 年 (2015 年)	8 月 25 日	(火)		1 3 4 号線側で生体と死体各 1 体を確認。ウミガメ産卵巣孵化調査を 8 月 31 日 (月) 15:00 より実施することに決定。
平成 27 年 (2015 年)	8 月 31 日	(月)	15:05	産卵巣掘削開始
			15:25	産卵巣確認 孵化生体 2 体確認
			15:35	産卵巣確認終了
				数量確認
				孵化・脱出 112 個
				未孵化・無精 40 個
				合計 152 個
				産卵巣周辺砂浜測量

生体（2体）放流
調査終了

17:00



産卵巣の探索



生体の確保



数量確認



生体の放流



測量調査

詳細な点検評価シート（平成26年度事業）

担当課：博物館

重点項目	2 地域文化の活性化		番号	2-3	
事業名	③ 博物館教育普及事業				
事業概要	地域の歴史・自然について、講演会、講座、野外観察会、体験学習を実施します。				
主な行動目標	博物館行事に参加する人の満足度を高めることを図ります。				
目標値の説明	博物館行事への参加者数				指標評価
目標値	6,800人	実績値	8,584人	A	
予算額	43,554千円	執行額	40,077千円	執行率	92.0%
1 平成26年度の実績					
<ul style="list-style-type: none"> ・人文・自然各部門で合計420回もの行事を行いました。 ・「聞き書きの会」「星空調査隊」など調査型の新しい行事を実施しました。 ・古文書講読会、聞き書きの会等では活動成果を会報や報告書としてまとめました。 ・石仏を調べる会はこれまでの活動成果を活用し、秋期特別展「平塚の石仏」において学芸員とともに展示制作、図録執筆を分担しました。 					
2 担当課の評価（成果）					
<ul style="list-style-type: none"> ・再任用職員の配置による学芸員増を背景に行事開催回数が増え、参加人数とも目標を達成しました。幅の広い活動で多くの方に地域の自然や歴史が持つ魅力を紹介できました。 ・新規行事の実施によって、新しい参加者層を得ることができました。 ・石仏を調べる会会員が執筆分担した特別展図録の利用は360部を超え、石仏の世界に会員以外の多くの市民が関心を寄せました。 					
特記事項 （創意工夫、チャレンジした点等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・聞き書きの会には過去に中央公民館の同種の講座で学んだ方が複数参加、施設の枠を超えて、身につけたスキルを活用する場になりました。 					
3 課題・今後の方向性					
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、新規会員の参加を促進する必要があります。 ・参加する市民のレベルに応じた行事のラインアップを継続して整えます。 ・特別なイベント・PRに頼るだけでなく、特別展・常設展を活用した行事参加促進を検討します。 					

③ 博物館教育普及事業

●アドバイザーからの意見

- 全体的に良い取組みを進められているが、幅の広い活動とはどのようなものか。また、新規会員の参加を促進するためにどのようなことを考えているか。新規会員はどのような利用者層を増やしたいと考えているか。
- 事業への参加者を集めることは大変だが、体験できる場や活動成果を発表できる場をつくることで参加者は増えていくので、その成果が実績値に表れていると感じた。今後は利用者層の分析を進めることで、さらに参加しやすい事業計画を検討してもらいたい。
- 「聞き書きの会」での成果集をまとめていくと思うが、ある程度系統分けしてテーマごとにしていかないと読み手も増えていかないとと思うので、計画的に進めてもらいたい。
- 展示物については、わかりやすい初心者向けの説明と詳しく知りたい人向けの説明などを上手く工夫することで来館者の興味を引けるのではないかと思う。館内説明員のレクチャーの質的向上にも努めることで来館者数の増加につながっていくと思う。

●意見を受けて教育委員会の総合見解

- 総合博物館の利点を生かし、特別展のテーマ設定や展示設営・関連イベント等について各分野が横断的に協力して事業を実施したことについて「幅の広い活動」として表現しました。また、26年度の新規事業として「聞き書きの会」や「星空調査隊」を実施し、特に「星空調査隊」において、仕事や学校などで日常博物館に来ることができないような方々の参加を得ることができたので、これからもこうした形で利用者層を広げていきたいと考えています。
- 利用者層の分析については今後も留意して取り組み、あわせて広報の方法等を工夫することにより、幅広い年齢層の参加をいただけるよう努めていきます。
- 「聞き書きの会」については、当初は民俗的な見地から出発したのですが、平塚に暮らすいろいろな方から自身の事を語ってもらうことにより、この地域の歴史・民俗などの要素が浮き上がってくると考えています。ここで「聞き書き集 記憶をつないで 第1集」を発行できたので、今しばらくはこの形で続け、データ・資料の蓄積に取り組んでいきます。あわせて、公民館など他の施設の行事や事業との連携・情報交換についても留意していきます。
- 来館者の皆様は、人によって求めるものが異なるので、展示や説明については、出来るだけわかりやすく情報を提供できるよう心掛けていますが、更なる工夫に努めます。また展示解説ボランティアについては、日頃より学芸員による講義や特別展ごとの内容解説などを行い研鑽に努めてきているので、今後も来館者の求めに応じたサービスの提供ができるよう研修を続けていきます。